

「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

しなやかな強さ

曹洞宗徳雄山建功寺住職で庭園デザイナーでもある枘野俊明氏は、著書『日本人はなぜ美しいのか』の中で、「日本人の美しさとは、しなやかな強さである。しなやかな強さは、竹がしなるように大きな力にも耐えて、何事もなかったかのように元あるかたちに戻ることができる。」「決められた枠組み、ルールのなかからつくりあげたものとはちがって、自分自身で、自分の内から見つけ出したものは、しなやかで強い。」と述べておられます。

大人も子どもも自ら課題を分析し、課題解決へ向けて少しずつ努力を積み重ねながら「しなやかな強さ」を身に付けていきたいものです。

学力の定着を

学習のまとめをし、脳を整理しながら学力の定着を図りたいものです。ご家庭でも、教科書とノート、ドリル等を活用し、繰り返し読み、繰り返し問題を解かせてみてください。

なお、長崎県教育委員会作成の学習プリント集「ゆめあこ」がインターネットから検索できます。「長崎県教育委員会ゆめあこ」で検索し、ID: yumeakogare とパスワード: kokorozasi を入力。上のバーより「全国学力・学習状況調査」「長崎県学力調査」「検証問題」「県重点課題」をそれぞれクリックすると学年別の問題があります。

祇園歴史の旅（その34）「信仰心に応える宗教界」

中部地区町内協議会設立25周年記念誌（平成20年発行）、佐世保史談会会員の筒井隆義さんの記念エッセーより抜粋。「明治維新を迎えるまで、日本人は神と仏を同根とした神仏習合を信奉してきました。生活規範を神さまに、祖先供養を仏さまに祈り、日常の朝夕、礼拝と祈念を欠かしませんでした。春夏秋冬の祭り、縁日命日と今日まで続くものも幾つかあります。

徳川時代いらい、明治維新を迎えても信仰の形はさほど変化しませんでした。ただ、天皇を御一新の旗印にし、天皇の祖先神とされた天照大御神を唯一絶対神とし、大権現、大明神といった神仏習合を厳しく分離し、仏教は弾圧に近い圧迫を受けました。行き過ぎた民衆の「廃仏毀釈運動」も全国に及びました。修験道は廃絶に追い込まれ、仏教の中でも密教系の真言、天台宗は廃寺の憂き目をみたものが多数にのぼりました。

軍港佐世保の建設期は、これら宗教がようやく復活する時期でもありました。人口の急増は、新たな信者の獲得が可能とあって、明治中期から各派仏教、禁教を解かれたキリスト教、そして新派の神道が相次いで佐世保に拠点をつくりました。

中部地区公民館の管内である名切谷、小佐世保谷は、これら宗教界にはもってこいの適地とあって、明治22年（1889）真宗大谷派東本願寺が島瀬町に開山、以降年を追って増加しました。主な中部地区の仏教施設は次のようなものです。

真宗本派西本願寺（明治25年）上京町、本願寺大谷派説教所（明治25年）名切免栞山、真言宗黒髪山大智院（明治40年）戸尾町、真宗教宗寺（明治43年）宮地町、日蓮宗延寿寺（明治44年）太田町、真言宗光輪院（明治44年）宮地町、臨濟宗圓通寺（明治40年）戸尾町、真宗蓮行寺出張所（明治40年）戸尾町、日蓮宗教会所（明治43年）宮地町、天台宗叡山教会分社（明治43年）光月町、真宗本願寺派説教所（明治44年）松川町、浄土宗善光寺（大正2年）本島町、真言宗成田山不動院（大正9年）熊野町

<キリスト教>日本基督教会（大正6年）浜田町、基督教伝導館（明治42年）本島町、救世軍小佐世保小隊（大正7年）京坪町、日本人メソジスト佐世保教会（不詳）常盤町

<その他の宗教>神理教直轄宮地教会本部（明治25年）宮地町、金光教佐世保教会（明治29年）太田町、実行教宮地嶽講社（明治41年）山県町、穴守教会（明治43年）太田町、天理教支教会（大正2年）祇園町（以上大正7年刊佐世保郷土誌から）

今回は、「佐世保要塞司令部と川原田弾薬庫」と題して、光月町に設けられた要塞司令部と西高梨にあった弾薬庫などをご紹介します・・・。